

第 13 回タウンミーティング（地域自治会意見交換会議） 議事要旨
日時：平成 30 年 1 月 12 日（金）午後 2 時 30 分～
場所：千里山コミュニティセンター 多目的ホール
地区名：佐井寺、五月が丘
参加者数：住民 6 名

会議冒頭、市長より「吹田市の今」と題し、データを用いて市の現状を説明した後、自由な意見交換を行った。	
意見交換の概要	
佐井寺	吹田は子供を育てる環境はとてもいいと思う。しかし、自由に子供が遊べる環境が近年特に減っている。公園にボール遊び禁止の看板があり、それを見てボールで遊んでいる子供を大人が注意することもある。子供が外で遊んで、心身ともに健康に育つ環境づくりが必要だと思う。
市長	一部の公園で地域から求められてやむを得ず禁止している公園はあるが、基本的には禁止していない。環境が変わったのではなく、市民が変わった。社会の許容度、受忍度がすごく低くなっている。このような社会になってきて、ボールで怪我した際に責任が取れるかと言われると行政は安全に配慮をしてやむを得ず看板を設置する。これは人口密度が高い都市の典型的な問題である。今、ある程度の規模の公園に、一人近隣の人で良いので、運営をお任せする市民の方を置き、苦情もその人に言うようにするというパークマネージャーというものを検討している。
佐井寺	太陽の広場（地域ボランティアの協力のもと学校施設を利用して、放課後に児童の安全安心な居場所を提供する事業）はありがたい。しかしボール遊びが不自由で、サッカーはOKでも野球はダメであったりする。野球がOKでも自由に使わせていなくて、言ってきた子に柔らかいバットとボールを貸し出しているところもある。
市長	バットでの事故が多い。柔らかいバットとボールならやっても良い。しかし、次はそれを数値化しないといけない。材質は何で、重さ何グラム以内、押したら凹む、「柔らかい」の定義はとか、行政が本気で入るとそうしないといけないが、そのような社会は求められていない。朝 6 時に誰もいないところで、硬式ボールでキャッチボールしていても極端な話、良いと思う。そういう判断が昔はできていた。悩ましいところである。

五月が丘	<p>バスの補助の廃止で高齢クラブのツアーがなくなったことや、コミュニティセンターの半額免除と福祉巡回バスの廃止等、それらが復活するのか、もしくは違う形で復活するのかを伺いたい。特に、福祉巡回バスは健都や市民病院等の交通アクセスも含めて検討して欲しい。阪大病院に行きにくいので復活を希望する。</p> <p>また、【青少年対策事業補助金】（※1）について、地域の青少年の人口割にされ、ほとんどのところが減ったと聞いている。予算の優先順位については理解すが、どうお考えか伺いたい。</p>
市長	<p>正直に言うと前々市長の際にサービスを広げ過ぎた。前市長の際に大きくカットした。両方とも正しいと思う。私はそれをリアルに勉強させてもらってきた。そこで必要だと感じたのは、政策、ポリシー、哲学である。何が問題かという、「説明」が足りていない。なかなか37万人に説明できてない。</p> <p>市民病院が移転する機会にバスを走らせて、南千里方面からも行きやすいよう、福祉巡回バスの復活ではなく、どういう方法で新たに始めたらいいかを議論している。</p>
五月が丘	<p>阪大病院行きのバスはどうか。</p>
市長	<p>市民病院も阪大病院も、本来そう減多に行くところではないので、少々のご不便は我慢していただきたい。まずはかかりつけ医に行くべきである。阪大病院では、本来の二次救急ができず、30分、1時間待たされるという現象が起きている。</p>
五月が丘	<p>がん検診などで行かれる場合はどうか。手術した人が通う場合もある。</p>
市長	<p>阪大病院は医学部のある意味、実験が仕事で地域の医療を支える病院ではない。高度な医療を受けられる病院がたまたま吹田市にあってラッキーぐらいに考えて欲しい。普段は、かかりつけ医、それから市民病院、済生会という考えが何とか定着しないかなと思っている。</p>
五月が丘	<p>自治会加入率が低下している。役員ができないという理由で自治会をやめていく。その対応としていろいろな事業をするが、連合自治会には行政から補助金がある一方、単一自治会には廃品回収の報奨金と公園の維持管理費しか行政からの恩恵がない。もっと単一自治会の役員が運営しやすいように行政から提案できないか。</p>
市長	<p>マンションの住人は自治会費が管理費から出されているので、加入の意識がまずない。自治会は無理矢理入るものではないが、なければどうなるか。隣とも挨拶しない社会になって、単身高齢世帯の情報もない場合、コミュニティ、つながりをどうキープするか。その一つのヒントは祭りなどのイベントである。祭りであれば人が集まってくる。そこで顔見知りになる。自治会だけではないと思う。</p>

五月が丘	自治会を辞めても近所づきあいはできる。自治会に関わらず参加できるコーラスなどのサークルをつくっていくような考え方が必要だと思う。新しく転入して来られた方はすぐに勧誘しないと、自治会に入らなくても暮らせる実感ができてしまい、加入しない。FAXによる自治会加入申込用紙や運営マニュアルの工夫など、行政による運営支援が必要である。
市長	志（こころざし）、分野で集まる志縁組織であるサークル、クラブなどは地域を超えてもよい。地縁組織である自治会の構造はまだ受け身であると言えるが、お上と関係ないのが志縁組織であるNPOである。地縁団体と志縁組織が融合すると強い。
五月が丘	自治会加入率が低く、特に戸建ての世帯で低い。いかに自治会の会員数を増やすのが大きな課題である。五月が丘地区はいろいろな活動が活発で、夏祭りなどを非常に頑張っており、年々事業が大きくなっている。地域のコミュニケーションの場として一つの大きな役割を持っていると思う。
市長	メールやホームページで情報を伝達して会議を減らせば、自治会やPTAの役員が出来る人も増えるのではないか。世の中はどんどん変わっているのに、同じ方法であるから若い人が入らない。もし変わらないのであれば、自治会とは違う形のコミュニティで、テーマ別のもの、例えば、山登りの集まりに入っているけど、コーラスの集まりにも入ってみるといような、一人で複数所属する重層的なつながりが広がっていくのではないかと考えている。
佐井寺	佐井寺地区で農業をしているが、近隣のマンションから匿名で苦情があり、野焼きができずに困っている。夏の除草剤、農薬、肥料も臭いという苦情が来るので皆が起きる前、朝早く4時ごろから撒く。農業体験の幼稚園児、小学生の声がうるさい、雨が降った時に道が汚れるという苦情もある。びくびくしながら農業をしなければならない。苦情を言う方には無料で農作物をあげたいのだが、匿名なのであげることもできない。
市長	匂いも煙も1ヶ月も続くものではない。昔から農業はそのようにしている。地域も巻き込んで一緒になってやりましょう、というのはどうか。吹田市では農業だけでなく、工業もやりにくい。人口密集地はどこでもそうである。農薬は毒物でもあるが散布時に周りの住民はマスクをしていない。吹田市では農薬を使って農業がしにくい土地になってしまったということである。

※1 【地区青少年健全育成事業補助金】

従前より、補助金額の積算に当たっては、青少年人口に応じた人口割と1小学校区当たり255,200円の学校開放事業補助金加算額の合計額を地区青少年健全育成事業補助金として交付しているものである。

要領を改正し、平成29年度補助金交付事務より、人口割については、前年度11月30日時点の人口を基準として毎年算定することを明記した結果、補助金を交付した32地区中、平成28年度と比較して4地区が増額、7地区が減額となった。